

序 章

本報告書は、建学の理想「産学一如」と建学の理念に基づき、平成 23 年度九州産業大学の自己点検・評価活動を総括したものです。

本学は、平成 22 年度に開学 50 周年を迎えました。開学以来、矜持を持ってこの建学の理想・理念を実現すべく、広く産業界の期待に応えられる多くの人材を育成し続けてきました。

ところで、本学は、平成 17 年 4 月に（財）大学基準協会の相互評価ならびに認証評価の申請を行い、平成 18 年 3 月 29 日付文書にて、同協会が定める大学基準に適合しているとの認定（評価結果）を受けました。

同協会の認定における「助言」等の指摘事項については、教育・研究の質的向上を図るため、短期および中長期的にさまざまな改革・改善に鋭意取り組んでいます。

教育・研究水準の一層の向上のため、九州産業大学自己点検・評価運営委員会のもとで、各学部・研究科などが有機的に連携できる体制を構築するとともに、実効性の高い自己点検・評価を行うため、平成 19 年度に大学評価室を設置しました。

また、社会的ニーズを的確に把握しながら、自己点検・評価活動を通して、詳細な教育情報を広く社会やステークホルダーに公表することで本学の教育・研究への信頼を高めるとともに、社会貢献活動の透明性を確保し、説明責任を果たしています。

教育情報については、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程の実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）などを公表し、本学における到達目標を明示しています。

第 1 クールとなる認定期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月末日までの 7 年間です。この認定期間の終了を間近に控え、第 2 クールとなる平成 24 年度認証評価申請に向けて、大学として、教育・研究の質の向上を目的とする自己点検・評価の結果を公表するものであります。

本報告書においては、（財）大学基準協会の新大学評価システムに対応すべく、「教育」「研究」「社会貢献」の 3 分野の総合的な位置づけの再認識に基づく、全ての教職員による不断の自己点検・評価が、確実な質の保証と向上につながる新たな内部質保証システムを恒常的に構築するための第一歩となることを目指しています。

この新たな内部質保証システムの基本は、「自己点検・評価の実質化」と「教育情報の積極的公表」であるとの認識を踏まえ、確実に P D C A サイクルを機能させるためには、全学の教職員の自主性や自律性に加え、意識改革が今まで以上に求められています。

わが国の長期の経済的停滞と少子化による 18 歳人口の減少、そして、本年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による未曾有の複合災害により、大学をめぐる社会経済環境は極めて厳しいものになっていると同時に、大学の果たすべき役割は重要となっています。

こうした中、本報告書は、本学が発展の歩みを止めることなく、次代に向け持続的に改革・改善に取り組んでいくため、重要な意味をもつものであると思料いたします。

九州産業大学
学長 山本 盤 男